

日本川崎病研究センターニュースレター

(No. 30) 2015.8.1

発行：特定非営利活動法人 日本川崎病研究センター

暑中お見舞い申し上げます

川崎富作

当センターのニュースレターも今回で 30 回になりました。

今年はハワイ、ホノルルにて、2 月 3 日から 6 日まで第 11 回国際川崎病シンポジウムが開催されました。シンポジウムでは、多くの研究者が川崎病の研究を熱心に続けていることを実感し、大変頼もしく思っております。また、シンポジウム期間中は、Dr. Melish をはじめ、親しい友人との再会やアメリカの「川崎病の子供をもつ親の会」の方々との交流をはたすことができました。シンポジウムに参加した方々に私の卒寿を祝ってもらうこともでき、大変光栄でした。

さて、ハワイといえば、Dr. Marian Melish との出会いについて、少し述べたいと思います。恐らく 70 年代前半だったと思いますが、私がまだ日赤医療センターに小児科医として勤務していた時のことです。ハワイの Kapiolani Children's Hospital の Dr. Marian Melish から一通の手紙が届きました。その手紙によると、当時はアメリカでも川崎病は知られておらず、「ハワイでこれまでに診断のつかない患者を 7-8 例経験した。たまたま日本人のドクターから『それは日本人の Dr. Kawasaki がすでに発表している病気だ』と聞いた」とのことでした。その手紙で特に印象的だったのは、「プライオリティーはすべてあなたにあ

る” から、あなたの持っている情報をすべて私に送ってほしい。日本語でも構わない」ということでした。そこで、私は川崎病に関する日本語の論文をすべて彼女に送りました。その後、Dr. Melish とは米カリフォルニア州 San Diego で会う機会があり、直接、資料を見せながら川崎病に関して説明しました。Dr. Melish はその後、自分たちの経験した川崎病の症例をアメリカの専門誌に発表しました。それが日本以外の国、アメリカにおける初めての川崎病に関する論文でした。これをきっかけにアメリカのドクターたちとの交流が始まり、1984 年には Dr. Melish を会長に The First US-Japan Workshop on Kawasaki Disease がハワイ・ホノルルで開催されました。

そして今年、その記念すべきハワイでアメリカをはじめとする世界中の多くのドクターたちと再会をはたし、大勢の仲間たち、川崎病の患者さん、親御さんたちとフラダンスを楽しみながら 90 歳を迎え、一緒に祝っていただいたことは、この上ない幸せでした。

ただ、残念なことに川崎病の原因は未だ手がかりすらつかめていません。原因が明らかになるまでは私もみなさんとともに頑張りたいと思います。(当センター理事長)

Japan Kawasaki Disease Research Center

Japan Kawasaki Disease Research Center

『第一例目との遭遇後 55 年の節目に
— 第 11 回国際川崎病シンポジウム
(IKDS) 開催される—』

佐地 勉

11th IKDS は本年 2 月 3 日から 7 日まで、Oahu 島の Hilton Hawaiian Village にて行われました。会長は Chicago NW 大学の Anne Rowley (専門：感染症)、と Toronto 小児病院の Brian McCrindle (専門：循環器) の共同開催で行われました。5 か月たった先日、Rowley 先生に学会の集計結果をお聞きした結果を表にお示しします。前回の 10th IKDS (於: Kyoto 2012) では、24 か国から 316 演題が集まりましたが、今回も多くの参加者があり盛況でした。

表：第 11 回国際川崎病シンポジウム集計

参加者総数	416 名
参加国	25 か国
抄録総数	279 演題
発表総数	316 演題 うち
総説・緒言	30
口演	74
ポスター	212

2 月 3 日午後、歴史的な収録が行われました。AHA が電子配信の特別番組を作ってくれるというのです。午後 3 時過ぎ、Hilton Hotel の Meeting Room に録画の Set が設けられ、北山さんの通訳を介して Interview が始まりました。予め Rowley 先生から“前日の同時通訳の御相談”がありました。気になっていたのでドアの隙間からちょっとだけ見させて戴きましたが、

とても嬉しい気持ちになりました (写真 1)。

内容は AHA の Site でまだ閲覧できます。



学会の 3 日間はあっという間に過ぎました。二日目の夜、Business Meeting を兼ねた、Key Opinion Leader の Dinner がありました (写真 2)。



議題は、次の IKDS を何時、どこで、だれがやるかという事です。様々な事情で、最近では昔と違って寄付金を集めるのは大変です。今回も「専門領域の違った二人の協力でようやく開催にこぎつけた」と会長からの本音が披露されました。そこで次会の 12th IKDS は、会場は日本の横浜で、そして時期は 2018 年の 5～6 月頃に、そして会長は、病理学の高橋啓先生 (東邦大学) と小児科の石井正浩先生 (北里大学) でお願いする事で了解が得られました。

大会 3 日目の 2 月 6 日夜には、翌日 2 月 7 日の川崎先生の 90 歳の誕生日をお祝いする祝賀会が開催されました。約 30 近い

Table が用意され、世界の研究者たちが紫色の衣装に身を包んだ川崎富作先生の卒寿を御祝いしました。卒寿は卒の俗字を九十と書くことに由来するという日本ならではの祝いです。英語では **Graduation** ですが、これは単純に卒業して辞めてしまうのではなく、次の段階に移るという前向きの意味だそうです。

一般に「学会は3年間出席しないと新しい知識に追いついていけない」と言われます。気が付けばつぎの IKDS まで2年9か月、抄録締切まで2年6か月余りとなりました。

次回も All Japan で、世界を“あっ”と言わせ、そして世界を“リードする”研究成果を沢山発表してほしいと願っています。そして、川崎先生が熱望する、“原因に関わる決定的な証拠”が見つかるよう日々の研究アイデアを模索して行きたいと考えています。次の IKDS の主役は誰でしょうか？“我こそは”と言う先生に期待しましょう。

(東邦大学医療センター大森病院小児医療センター)

Japan, Kawasaki Disease Research Center

Japan, Kawasaki Disease Research Center

ニュースレターNo.30をお届けいたします。
ご意見ご感想をお寄せ下さい。

第35回日本川崎病学会・学術集会開催にあたって

野村裕一

この度、10月9日、10日に「第35回日本川崎病学会・学術集会」を鹿児島県医師会館（鹿児島中央駅から徒歩5分）で開催させていただくことになりました。九州で行われる学術集会としては2回目であり、今回また、九州からの情報発信の機会を得られたことを心から光栄に思います。

川崎病は毎年1万人以上と多くの発症がありますが、適切に診断し、免疫グロブリン超大量療法を行うことでほとんどの症例は問題なく軽快するようになりました。ただ、一部には診断困難な例や経過の思わしくない例が存在し、そのような場合の対応や対策を検討しなくてはならない時代となっています。既に、重症例のスクリーニングを行い特化した治療が行われ始めていますが、その効果の検証も必要な時期にきているものと思われます。川崎病の診断・治療・管理の更なる質の向上をめざすためには、多くの関係者が新しい情報を共有することが大切です。今回の学術集会が、川崎病についての多くの新しい情報を発信し多くの人々の情報共有の機会になることを目指したいと考えます。

今回の学術集会では、「川崎病を全方位から考える」をメインテーマとし、臨床および研究に関するいろいろな視点からのディスカッションが行える学術集会にしたいと考えております。川崎病の病因や病態、診断や検査および治療、急性期や遠隔期管理等について、知見や理解が

更に深まる機会になるものと期待しています。

特別講演をランチオンセミナーの形として2題行います。初日の鹿児島大学の武井修二教授の講演は、「膠原病治療からみた川崎病治療のメカニズム」のタイトルで、膠原病についての多くの知見をもとにした川崎病の病態についての解説をしてもらいます。2日目の鹿児島大学の丸山征郎教授の講演は「PAMPs/DAMPs-インフラマソーム枢軸と血管炎・血栓症」のタイトルで、現在川崎病の病因との関連でも注目されている PAMPs/DAMPs を中心にした解説をしてもらいます。教育講演も、鹿児島大学の伊藤隆史講師の「血小板-白血球-血管壁のクロストークと炎症」と福岡市立こども病院の原寿郎院長の「川崎病の病因・病態：up-to-date」の2題行います。特別講演や教育講演で川崎病の病態、治療、病因に関連した理解が多いに深まるものと考えています。

また、イブニングセミナーとして「ステロイド初期併用療法の効果の検証」を行います。重症の川崎病患儿がステロイド初期併用療法で加療されるようになってきました。その効果や問題点も含めて検討する良い機会になるものと期待しております。

2日目の15時30分からは市民公開講座「川崎病とつきあう」を開催します。川崎病患儿やそのご家族の方の川崎病やその長期的な管理も含めての理解が深まる機会にできればと考えています。

学会は10日土曜日に終了しますが、12日の月曜日は体育の日で祝日です。今

回の学会終了後に鹿児島の観光もお勧めいたします。桜島を含めた鹿児島市内観光や霧島や指宿の温泉もお勧めですが、屋久島や種子島までちょっと足を伸ばすこともよいのではないのでしょうか。

鹿児島でお待ちしております。多くの方々のご参加を期待しております。どうぞよろしくお願いいたします。

(鹿児島市立病院小児科・第35回日本川崎病学会・学術集会会頭)

Japan Kawasaki Disease Research Center

Japan Kawasaki Disease Research Center

川崎病と情熱

津田悦子

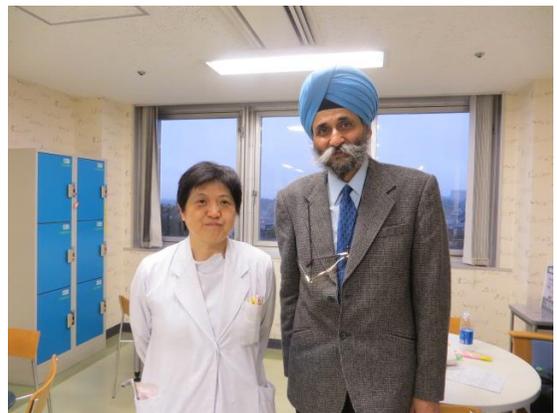
川崎病は不思議な病気です。高度成長期に入りはじめた1960年代前後にあらわれた、人種、環境変化の関与が推測される高サイトカイン血症です。川崎病の心後遺症は後天性心疾患の原因となり、死に至ることがあります。後遺症が、なぜ心臓を養っている冠動脈に生じやすいのか、まだわかっていません。健康な小児を突然襲うとんでもない病気です。今年、大阪で開催された日本小児科学会に参加されたSingh教授が、当院を見学に来られました。経済成長著しいインドで、現在増加しつつあると言われていました。日本、韓国、台湾、中国の次であるとのこと。海外赴任をされている人たちの子息が、現地で川崎病に罹患するというのもめずらしくありません。そういう観点からみても、川崎病という病気は、遺伝的因子と環境因子が関連することにより生じる1つの免疫反応なのでしょう。

1990年代、日本川崎病研究会に参加しはじめたころ、個性の強い先生がたくさんおられ、討論を拝聴し、興味深かったです。いわゆる『熱い』先生が多かったです。熱くご自身の意見、ポリシーを語られ、主張されていました。川崎病黎明期、近畿川崎病研究会では、土曜日の午後エンドレスであったと語り継がれています。種々の回想録を拝見しますと、川崎病が1つの疾患として認知されるようになるまで、川崎先生がどれだけご苦労されたのか、想像におよぶものではありません。たいへん険しい道乗り越えて来られた原動力は何なのでしょう。川崎病原因の解明、撲滅に対する強い思いなのだとは拝察いたします。自身の命を削りながら仕事をされ、早逝された神谷哲郎先生が、生前『川崎先生の奥様が立派な』のです。あれだけの論文を出版する費用を捻出されたのだから』とおっしゃっておられました。川崎病発見以来、今尚、川崎ご夫妻の『川崎病にかける情熱』は、他の誰よりも熱く、強く、大きいのだと感じさせられます。

今年5月に、イタリアのシチリア島から12歳の男児が、当院で冠動脈バイパス手術を受けるため、来日しました。仲介の労をとってくださったのは、北村惣一郎名誉総長でした。先生は休日にもかかわらず、関西空港まで出迎えに行かれました。また、イタリアの主治医も手術前後数日来日されました。帰国前に、ご両親が手作りのイタリア料理を皆に振る舞って下さいました。早朝から下準備をして下さったとのこと。音楽学校の先生をされているというお父さんが生地から作って焼いて下さったピザは、絶品でした。出されるものすべ

て、レストランで食べているのかと思うほどおいしく、心のこもった料理でした。料理を、時間をかけて作り皆で味わうという、国民性の違いを感じました。イタリア語は全くわからず、冷や汗をかきながら、主にジェスチャーでのコミュニケーションでした。

先日、メキシコシティーのドクターから、日本で川崎病について学びたいとのメールを受け取りました。メキシコでも川崎病が増加しているようです。川崎病の患者さんの治療には、日本のみならず、世界中の先生が取り組んでおられます。川崎病とその後遺症に対する診断、治療は、これまで多くの先生の、川崎先生ご夫妻に劣らぬ情熱で、進歩してきました。川崎病に罹患しても、後遺症が残っても、日常生活を制限なく過ごし、寿命を全うしていただきたいと願います。



インドの Chandigarh 大学の Singh 教授とともに

(国立循環器病研究センター小児循環器科)

Japan Kawasaki Disease Research Center

Japan Kawasaki Disease Research Center

事務局から

【センター日報】

- 平成 27 年 5 月 15 日 平成 27 年度第 1 回理事会開催 6:00pm～（於:当センター）
平成 27 年 6 月 6 日 平成 27 年度総会と研究報告会（於:エッサム神田）1:30 pm～
各年度の事業報告及び会計報告、次年度の事業計画及び予算計画は総会議事録と共に
当センターでいつでも閲覧できますので、お気軽にお立ち寄りください。
平成 27 年 6 月 6 日 平成 27 年度第 2 回理事会開催 13:00 pm～（於:エッサム神田）
平成 27 年 8 月 21 日 平成 27 年度公募研究選考委員会開催 17:00 pm～（於:当センター）
平成 28 年 3 月 11 日 平成 26 年度第 3 回理事会開催予定（於:当センター）

【特定非営利活動法人日本川崎病研究センター会員総数 265】平成 27 年 4 月 現在
[正会員：95 名、4 法人、6 任意団体]：[賛助会員：146 名、2 法人、1 任意団体]

【研究会・学会】

- ★ 第 16 回北海道川崎病研究会 平成 27 年 9 月 26 日（土）
代表世話人:布施茂登先生（NTT 東日本札幌病院小児科）
- ★ 第 35 回日本川崎病学会 平成 27 年 10 月 9 日・10 日（金・土）於:鹿児島県医師会館
会頭:野村祐一先生（鹿児島大学医学部小児科）
- ★ 第 40 回近畿川崎病研究会 平成 28 年 2 月 27 日（土）13:00～ 於:テイジンホール
会長:城戸佐知子先生（兵庫県立こども病院）
- ★ 第 35 回東海川崎病研究会 平成 28 年 6 月 予定 於:愛知県医師会館
地下 1 階「健康教育講堂」 当番幹事:
- ★ 第 35 回関東川崎病研究会 平成 28 年 6 月 予定 於:日赤医療センター 講堂
事務局代表:土屋恵司先生（日赤医療センター小児科）
- ★ 第 12 回国際川崎病シンポジウム 2018 年 6 月 5～8 日 於: Pacifico Yokohama, Japan
問い合わせ先：日本川崎病研究センター Tel:03-5256-1121, Fax:03-5256-1124
- ★ 「川崎病の子供を持つ親の会」問い合わせ先： Tel:0467-55-5257 浅井 満

新会員募集にご協力ください!!!

正会員 年会費 20,000 円

賛助会員 年会費 5,000 円

【川崎病に関するご相談】

当センターでは、川崎富作理事長が川崎病に関するご相談を受けております(無料)。お電話お手紙、Fax 等でご相談をお寄せください。(電話：火曜日・金曜日：午後 2 時～)

~~~~~  
特定非営利活動法人日本川崎病研究センター  
〒101-041 東京都千代田区神田須田町 1-1-1 久保キクビル 6 階  
Tel:03-5256-1121 Fax:03-5256-1124

